

令和4年度1学期終業式「訓話」(令和4年7月25日)

新潟県立長岡高等学校長

鈴木 勇 二

1 はじめに

始業式から3ヶ月と19日、今年度もその3分の1が終わりました。春から夏へと季節も移り変わりました。私が通勤で通る道路の両脇には、田んぼが広がっています。5月の田植えの頃は一面が水鏡となり、鮮やかな青い空を映していました。植えられた当時は弱々しかった早苗も、今は分蘖（ぶんけつ）が進み力強く青々としています。これからはどんどん背が伸びていきます。その光景を見ていると、長岡高校でたくさんの経験をして成長していく皆さんと重なり、嬉しい気持ちになります。

さて、新型コロナウイルスの感染が猛威を振るっています。県内の感染者はここ数日1,800人を超え、長岡市内の感染者も150人を超えています。第7波の特徴の1つは若い世代の感染が多いこと。連日、多くの高校で生徒の感染が確認されています。

夏休み中にも、進学補習や集中学習、部活動、病院見学、県内SSH研究発表会、東北大学オープンキャンパス、高大連携講座といった行事や部活動が活発に行われます。これらの活動は皆さんの健全な成長に必要なものであり、新型コロナウイルスへの感染によって止めるわけにはいきません。校内での感染拡大は何としてでも防がなくてはなりません。既に何度も指導を受けていると思いますが、はじめに、感染症対策について、5点、確認をします。

1つ目、体調不良時（発熱・咽頭痛等）は登校を控え、症状が重い場合は速やかに医療機関を受診してください。また、家族をはじめ普段接する人に濃厚接触者がいる場合も登校は控えるようお願いします。

2つ目、不要、不急の外出は控え、毎日、健康観察をしましょう。

3つ目、学校生活においては、マスクの着用、手指消毒など、3密の回避など、基本的な感染症対策を徹底する。マスクは、部活動など熱中症が心配される活動をしている時を除き着用し、大きな声での会話は控えてください。

4つ目、マスクを外す際、特に昼食時の黙食は重要です。黙食をしなかったために濃厚

接触者に指定されることが多々あります。歯磨き時も同様です。

５つ目、教室の換気。現在流行している「BA.5」は感染力が強く、マスクをしていても、換気が悪いと感染する可能性があります。換気を良くするために、

- ①教室前後の上の欄間を開ける
- ②教室前後の入り口扉を5 cm 開ける
- ③教室前後の外窓を5 cm 開ける

を徹底してください。皆さんの教室は、今、どうなっているのでしょうか。第一部会の期間、これらが守られていない教室が見受けられました。冷房の利きが悪くなりますが、①②③を徹底し、換気を優先してください。

たった1人の気の緩みが、感染を広めたり、まわりの人を濃厚接触者にして学習を初めとした学校活動を止めてしまうこととなります。先ほど説明した対策を徹底すれば、概ね、そのようなことは起きないと考えられています。夏期休業中も、以上の5点の徹底をお願いします。

2 1学期の振り返り

さて、皆さんにとって、この1学期はどのような期間だったでしょうか。主な行事を中心に1学期の出来事をまとめましたので、話を聞きながら、各自、振り返ってみてください。

4月6日に始業式、入学式があり1年生の長高生としての生活が始まりました。しかし、学校内での新型コロナウイルス感染拡大が心配されたため、4月12日から17日は臨時休校となりました。新年度早々の臨時休校で、特に1年生は、生活のリズムをつかむのが大変だったかと思います。4月22日には2, 3年生がクラス単位でのバス遠足に行きました。本来の遠足とは異なりましたが好評でした。3年理数科の課題研究発表会は、一週間延期となり4月26日に行われました。1年以上かけて取り組んできた課題研究を堂々と発表する姿に感動しました。特に優秀な研究は、今後、全国大会等で発表します。頑張ってください。5月下旬からの県総体では（これが最後の大会となった3年生が多いわけですが）、全力を出し切ってくれたと思います。上位大会へも多くの選手が出場します。さて、体育祭は一日延期し、6月9日に、保護者等の観客を入れての開催としました。多くの人が観戦する中の体育祭はやはり良いなと感じました。今年度の聖火点灯は、なんとも頼もしい男子生徒によるものでした。第一部会は、感染症の校内感染を防ぐため2週間延期され、

先週末に開催しました。楽しんでもらえましたか。

昨年もお話ししましたが、こういった様々な経験をとおして、皆さんは、クラスの団結や友達との絆を深めると共に、新しいことに挑戦するときの緊張感や楽しさ、責任感、充実感、挫折感など、人として成長していくために必要な多くのことを学び、感じたと思います。ただし、それは全力で取り組むからこそ得られるもの。何事も前向きに、積極的に、失敗を恐れずに全力で取り組んでいきましょう。

さて、こういった行事が毎日行われているわけではありません。皆さんの学校生活の大半は、授業における学習活動です。その時間を大切にすることは、高校生活を大切にすることと同じです。一日一日の積み重ねを大切にしていきましょう。

3 読書について

1学期に読んだ本を何冊か紹介します。初めに、岩井圭也さんの『永遠についての証明』。特別推薦生として、ある大学の数学科に入学した3人の学生。そのうちの1人がとてつもない才能の持ち主で、3人は共同研究で画期的な成果を上げます。しかしそのとてつもない才能の持ち主は未解決問題の証明と思われる記述が書かれた研究ノート残し亡くなってしまふ。この物語には、研究ノートがどのように書かれたかと、残された仲間が、葛藤と戦いながら、その難解な記述の解明に挑んでいく様子が描かれます。この挑戦は、最終的には次の世代に引き継がれていきますが、ドキドキしながら読み進めました。私自身、数学の教員であったので、そのように感じたのかもしれませんが。久しぶりに「研究」というものに触れることができました。数学や科学に興味のある人には是非読んで欲しいです。

誰もが納得する新しい概念の構築というのは簡単にはできません。ですが、研究者は常にそういったことを考えます。

例えば、皆さんがよく知っている直交座標 (xy 座標)。この概念は17世紀に確立されましたが、考案した人の名前をとってデカルト座標ともいいます。この座標という考え方の導入により、「関数」と「図形」とが、例えば、元々は別物であった2次関数と放物線とが結びついたのです。このことにより、解析幾何学という新たな研究分野がその後発展しました。(資料を参考にしてください)

それから「数」の概念について。自然数、整数、有理数、実数、複素数、これらは知っていると思いますが、これらを含む新しい数の概念を構築することで、これまで証明され

ていなかった未解決の問題が解決することも考えられます。夢がありますね。

数学にはまだ答えが見つかっていない問題や、結論が予想されていてもまだそれが証明されていない問題が数多くあります。大学に行き、最先端の数学を研究するとなるとそういった未解決の問題に対峙することになります。数学に限らず、研究の最先端はそういうものであり、結論が見えないからこそ、好奇心が湧き、それを追求しようという気持ちが湧いてくるものだと思います。多くの人に、そういった世界に飛び込んで行って欲しいと思います。(資料を参考にしてください)

次に、南杏子さんの『いのちの停車場』です。昨年映画化された小説なので、知っている人も多いでしょう。長年にわたり東京で救命救急医として働いてきた女性医師が、ある事情から父が暮らす石川県金沢市の実家に戻り、訪問診療医として診療所に勤めることになります。「命を助ける」というよりも「命を送る」という、それまでとは違うかたちで「命」と向き合うことに戸惑いながらも、様々な経験を通して在宅医療を学んでいく姿が描かれています。このような紹介だと重苦しい物語のように思えるかもしれませんが、金沢という美しい街を舞台に、読みやすい文章で、涙や喜び、笑いを交えながら物語は進みます。私自身、25年前に金沢に1年間住んだことがあるので、金沢の美しい情景が思い浮かび、タイムスリップしたような感覚で読むことができました。また、私が、主人公の女性医師と同世代であることも、主人公の考え方や心の動きがよく理解でき、この物語を興味深く読めた要因かもしれません。医療を志す人はもちろん、そうでない人にも是非一度読んで欲しい一冊です。

現在ですが、門井慶喜さんの『銀河鉄道の父』という小説を読んでいます。銀河鉄道といえば宮沢賢治ですね。この物語は宮沢賢治の父政次郎を主人公にしたものです。読み始めたばかりですが、今後の展開が楽しみです。

どの本に興味を持つかは、その人の経験に負うところが大きいように思います。以前お話しした「目が合った本」というのも、経験からくるインスピレーションのようなものでしょう。この夏、皆さんが、素敵な本と出会うことを期待しています。

4 おわりに

いよいよ明日から30日間の夏休みです。受験勉強や部活動、行事に忙しいかもしれませんが、感染症対策を徹底しつつ、楽しみましょう。

以上で訓話を終わります。